

令和6年度 第2回信州オープンドアスクール創造会議 次第

1	日 時	令和6年5月27日(月) 10時~12時
2	会議システム	オンライン会議システム Zoomを使用
3	開催方式	Z o o mによるオンライン方式
4	ホスト会場	長野県庁8階 教育委員会室
5	接続情報	I D 585 895 8325 / パスコード 0527

1 開会

2 教育次長挨拶

3 議題 進行：座長

(1) 先行事例から学ぶ

- ・ 岐阜市立草潤中学校
- ・ 三豊市立高瀬中学校

(2) 意見交換

4 連絡

5 閉会

草潤中学校

令和3年4月開校
岐阜市立の「学びの多様化学校」

ありのままの自分で学ぶ



- ☞ 特例校は**在籍校に通えない生徒**に対し、エールぎふに加え、更なる選択肢として提示できる。不登校出現率の高い**中学生を対象とした特例校**を、**徹明小跡地に設置できないか検討**する。

■岐阜市における必要性（ニーズ）

教育機会確保法（H28.12.14公布）

- ・市の方針として、多様な個性や能力を活かすこと、学びのセーフティネットの構築を目指している。
- ・様々な事情で**在籍校へ通えない生徒**に対する、**学習の場、居場所**として**選択肢の一つ**になる。
- ・個の実態に配慮した教育を行う**単位制高校等**は、**不登校生徒の学びの場**としての**有効性を確認**できている。

■位置付、機能（案）の検討

- ・位置付：**岐阜市立中学校** *校名等、別途検討
- ・方向性：**全ての子どもたちにとって充実した教育機会の確保**を目指す、**不登校対策の新たな一手**
- ・定員：**全校生徒40名程度、市内全域から通学可**（市立小学校からの入学、**市立中学校からの転校**を想定）
- ・教職員：**県費負担教職員10名程度及び、市費負担の支援人材**（ほほえみ相談員等）など配置予定
- ・その他：教育課程の内容に係る協議は、文部科学省と行う

■設置場所の検討

- ・特例校の位置付け・機能を勘案するとエールぎふとの併設も考えられるが、現在の各施設の状況、整備・運用に係るコスト、取組みのスピード感等から判断すると、**徹明小跡地での設置が望ましい**

設置までのスケジュール

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
小学校の 統廃合										
跡地利用										
庁内・地 元説明										
教育課程 申請										
開校準備										

統合準備委員会

建設予定地（徹明小）閉校

跡地の教育利用確認

跡地利用委員会

大学サテライト講座・土曜児童クラブ
日本語初期指導教室・スーパーシニア

不登校特例校視察

不登校特例校設置を教育委
員会定例会で確認

市議会説明

地元説明

パブコメ・各種意見交換

制度設計→
申請手続き
予算案作成
県教委協議

教育機会確保法成立

開校諸準備

草潤中開校

特例校設置準備室（室長・係長・行政職2名・アルバイト1名）
廃棄物処理・環境整備・学校設置条例等改正・教職員配置・生徒募集等

草潤中学校について

学校の体制

- ・ 草潤中学校 在籍者数 **46名** (1年:12名 2年16名 3年18名)
- ・ 夜間通級指導教室 (トワイライト) + 日中通級 **39名**
- ・ 草潤サポート (市内中学生への支援) **45名**
- ・ 岐阜市オンラインフリースペース事業 (岐阜市) **メタバーズ**

教職員について

校長 **1** 教頭 **2** 主幹教諭 (夜間通級管理) **1**

教諭 **13名**

内 児童生徒支援加配 **1** 通級加配 **2** 通級コアT加配 **1**

草潤サポート加配 **2** メタバーズ加配 **1** (兼務校あり)

市常勤講師 **1** 養護教諭 **1** 事務職員 **1**

市費支援員 **2** 学校司書 **1** SSS **1** 学校校務員 **1** 計 **25名**

ありのままを受け入れる

年間授業時数770時間（標準時数1015時間）

草潤中	国語	社会	数学	理科	保健 体育	セルフ デザイン (音・美・ 技家)	外国 語	ウォームU クールD (道・特)	総合
全学年	105	70	105	70	105	70	105	70	70

個々の自主性を尊重 決まりごとが「ない」

- ・校則（頭髪、携帯）、制服、カバン、靴 等 自由
- ・給食、そうじ がない
- ・好きな場所で自由に過ごすことが認められている
- ・話しやすい先生を個別担任として選ぶ

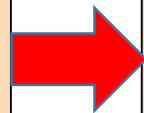
自分の決めた場所で、
自分の決めた方法で、
自分の学びたいことを学ぶ

自己選択

1 心身の安定を取り戻す

2 新たな自分の可能性を見出す

1 心身の安定に必要な支援



2 新しい自分見つけに必要な支援

安心できる居場所

同世代のつながり

信頼できる大人

自分の良さの自覚

個別最適な学び

1 安心できる居場所

イマここボード

様々な居場所



自己選択

2 信頼できる大人

全ての職員が全ての生徒にかかわる

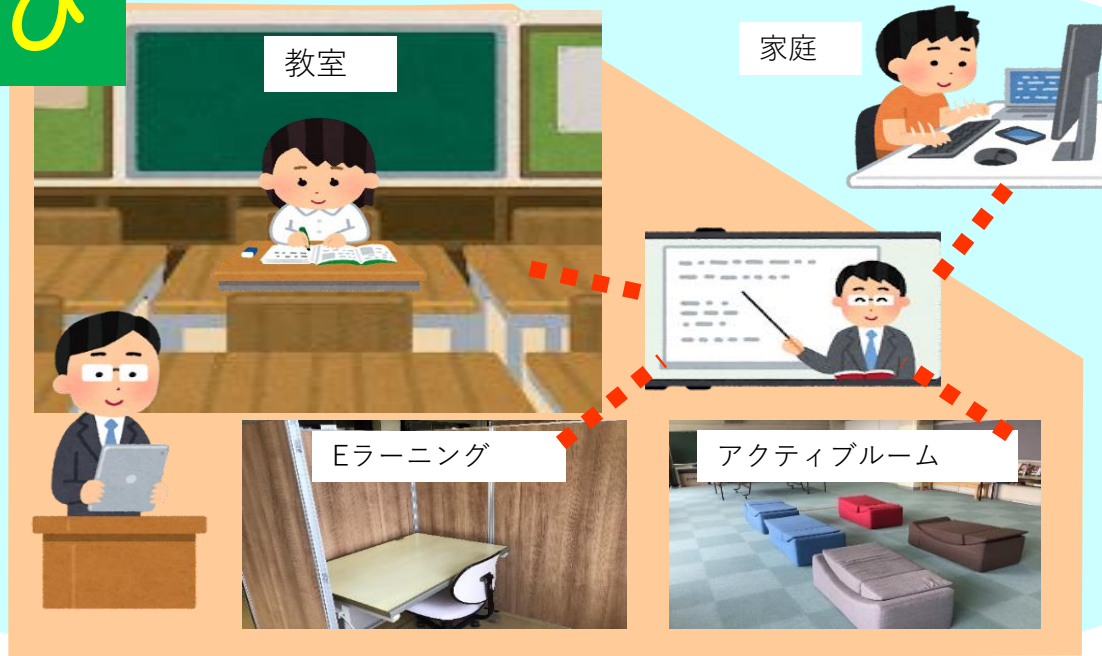
- ・ 寄り添い、受け入れる
- ・ 生徒を正しく理解する
- ・ 話しやすい先生を個別担任として選ぶ

対話を通して、教師の在り方を考える

- 1 互いの信頼感 協働意識
- 2 深い生徒理解と適切な支援
- 3 目標の共有 今後の方向性

3 個別最適な学び

該当学年の
学習



自己課題に
合わせた学習



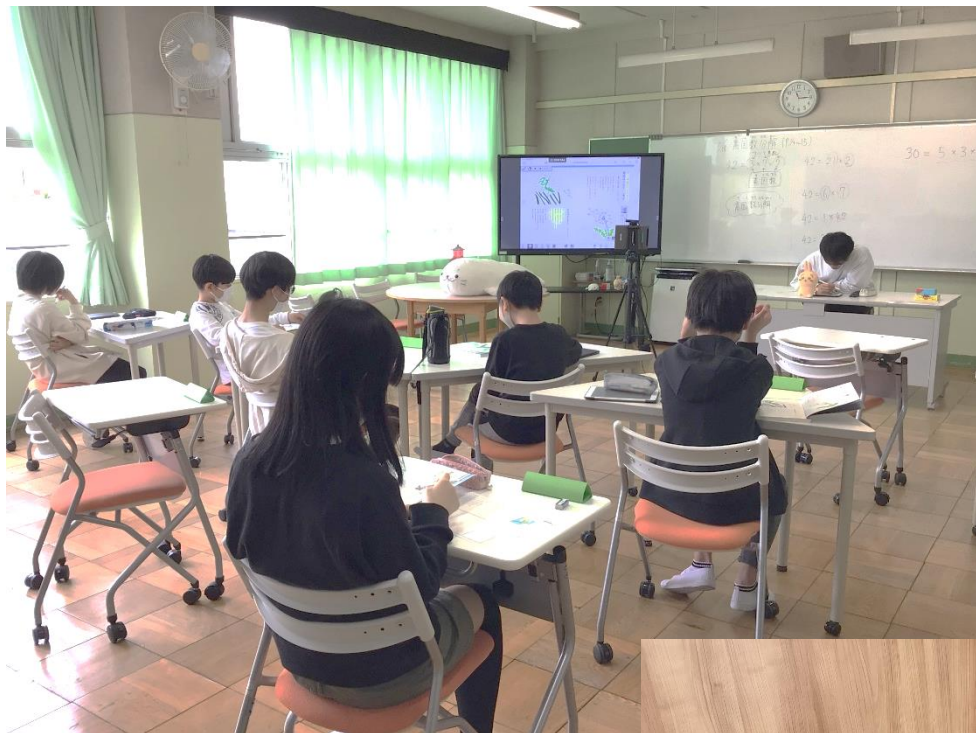
興味のある活動



休憩

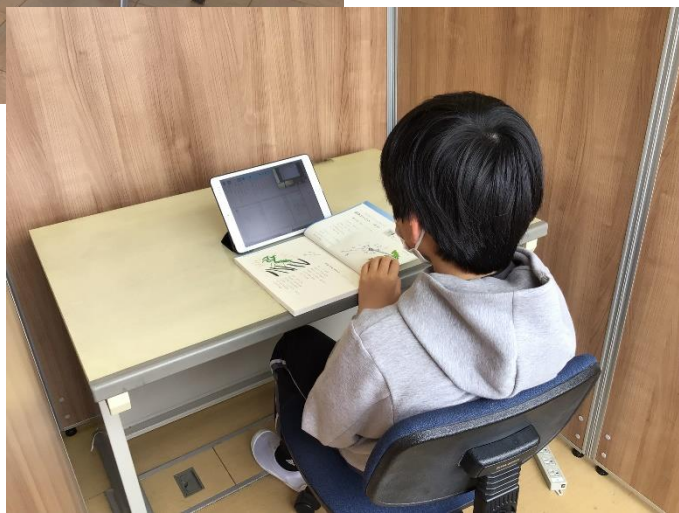


学習の様子（ある1時間）



教室で仲間と

別室で個別に指導



別室からオンラインで



この時間は休憩

4 同世代のつながり

総合的な学習

- ・ 縦割りチームで探究活動
テーマ「もっと草潤中をよりよくするには」
- ・ A：イベント企画 B：食と健康 C：地域と環境

教科・学校行事

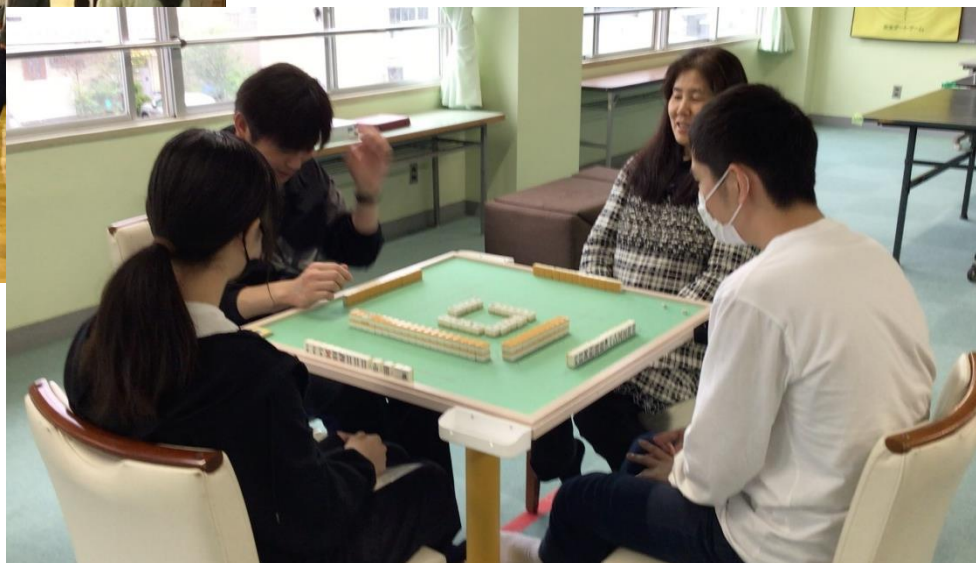
- ・ スポーツフェスティバル（体育）
- ・ 修学旅行、宿泊学習
- ・ 地域の方と池掃除、バーベキュー



スポーツフェスティバル

マイタイム

- ・ 放課後、好きなことに自由に取り組む 週に2~3回
- ・ 陶芸、音楽、バドミントン、バレー、カードゲーム、クッキング等、生徒のニーズに応える 講師を呼ぶことも



必要な要素

生徒の願い

「学びたい」

- ・勉強したい
- ・遅れを取り戻したい
- ・好きなことに打ち込みたい
- ・進路が気になる

個に応じた学び

「仲間とつながりたい」

- ・友達が欲しい
- ・みんなで〇〇がしたい
- ・こんな学校行事を取り入れてほしい

他と関わる活動

安心

+

新しい自分へ

本校の日課

		月	火	水	木	金
始業	9:30					
WU	9:35	マナビプラン	ウォームアップ	ウォームアップ	ウォームアップ	ウォームアップ
1	9:55	社会	数学	理科	英語	国語
2	10:55	英語	理科	国語	社会	数学
昼食	11:50					
昼休み	12:15					
3	12:30	国語	セルフデザイン	数学	総合	英語
4	13:30	体育	セルフデザイン	体育	総合	体育
CD	14:25	クールダウン	クールダウン	みんクル	クールダウン	マナビプラン
放課後	14:45		マイスタディ	マイタイム	マイタイム	マイタイム
終業	15:45					

- ① マナビプラン (個)
- ② ウォームアップ (安心)
クールダウン (安心)
- ③ みんクル (つながり)
- ④ セルフデザイン (個)
- ⑤ 総合的な学習
(個・つながり)
- ⑥ マイスタディ (個)
- ⑦ マイタイム (個・つながり)

学校生活の中で育つ力

セルフ コントロール

- 自分の状況や気持ちを理解する
- 自分の行動や感情を調整する

セルフ デザイン

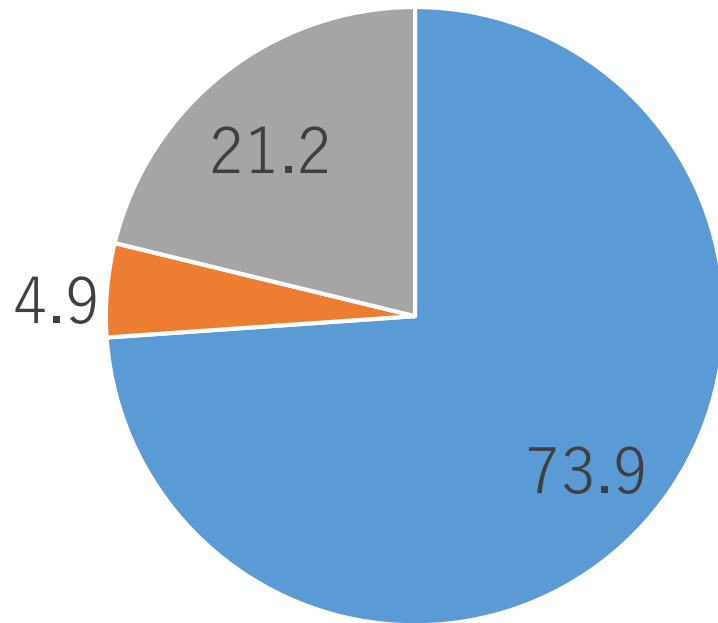
- 自分に合うものを選択する
- 自分の生き方を描く

ソーシャル スキル

- 場に応じた関わりをする
- 主体的にコミュニケーションをする

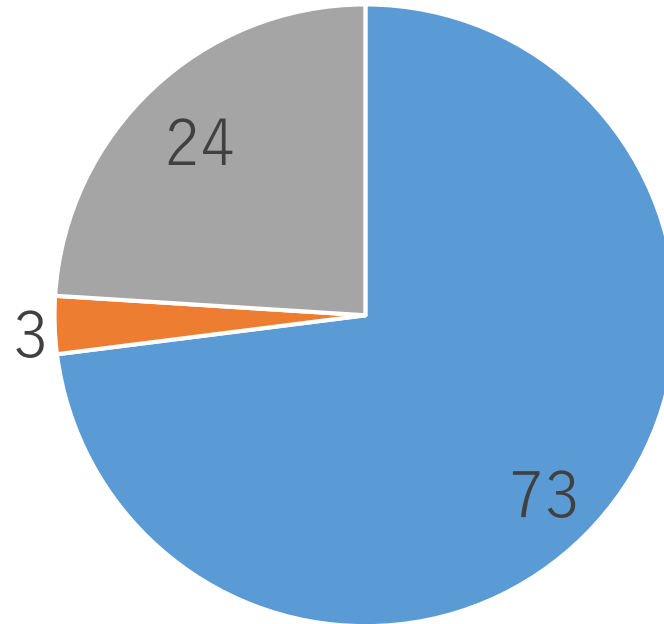
出席状況

R4



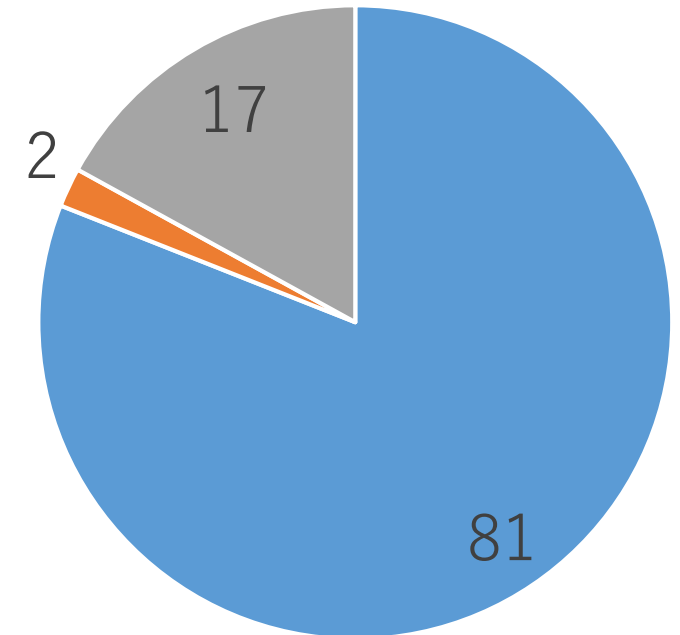
■ 登校 ■ 出席扱い ■ 欠席

R5



■ 登校 ■ 出席扱い ■ 欠席

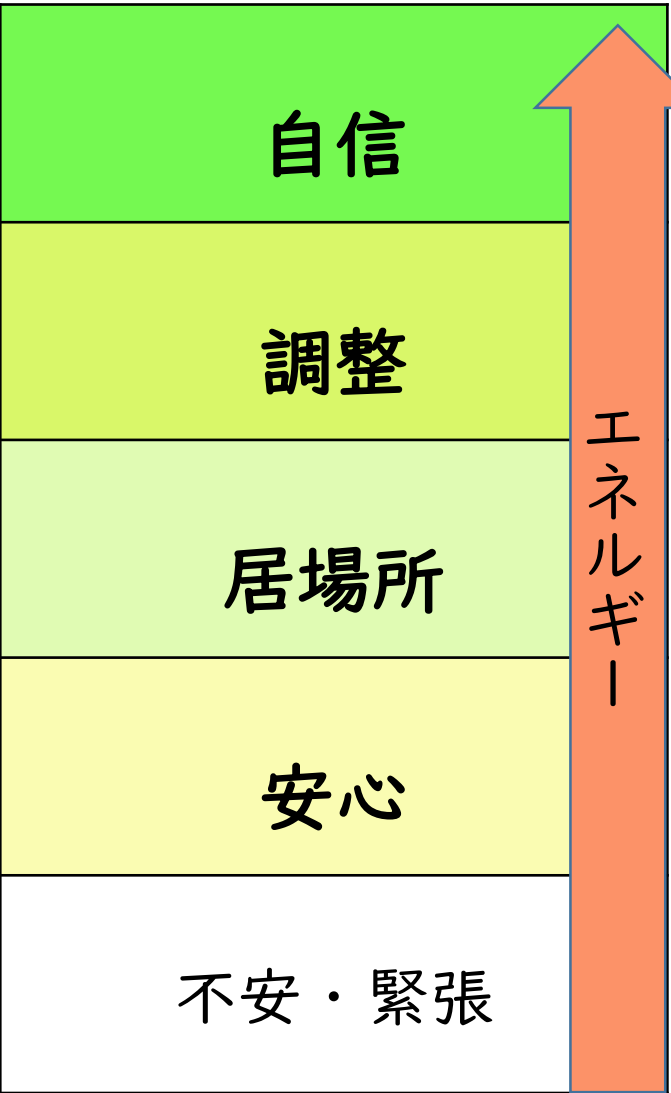
R6 (4月)



■ 登校 ■ 出席扱い ■ 欠席

特例校としての役割

一般の学校



- 90%
 - テストをきっちり
 - 仲間のために働きたい
 - 目標をもって学習
 - 好きなことを充実
- 70%
 - 学び直しをしたい
 - 登校ペースが安定
 - 仲間と思い切り行事を楽しみたい
- 50%
 - 疲れたら休めばいい
 - 他教科もやってみよう
 - 仲間といるのは楽しい
 - 友達が欲しい
- 30%
 - 分かる教科には参加
 - この先生がいれば大丈夫
 - 一人で過ごせる場所がある
 - 好きなことならやる
- 10%
 - 勉強に取り組めない
 - 集団に入れない
- 0%
 - 家から出るのが不安

選択できる多様な学び



三豊市における公立夜間中学について

三豊市総合政策アドバイザー
城之内庸仁

I 三豊市の概要

- (1) 面積: 222.7 km²
- (2) 人口: 58,458人 (推計人口: 令和6年4月1日)
- (3) 世帯数: 23,325世帯 (同上)



Ⅱ 統計データ

1. 義務教育未修了者数

〔単位:人〕

	小学校が最終 学歴の者 ①	未就学者 ②	義務教育 未修了者 ①+②
三豊市	670	42	712
香川県	6,688	459	7,147
全国	804,293	94,455	898,748

参考資料(香川県、全国)
「令和2年国勢調査結果」(総務省統計局)

2. 小・中学校における長期欠席者（不登校）

〔単位：人〕

	小学校 ①	中学校 ②	義務教育者計 ①+②
香川県	558	1,283	1,841
全 国	105,112	193,936	299,048

参考資料(香川県、全国)

「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

令和5年10月4日 文部科学省初等中等教育局児童生徒課

Ⅲ 三豊市における公立夜間中学について

1. 設置形態

既存中学校に開設する「二部授業を行う学級」として設置

2. 設置場所

三豊市立高瀬中学校



JR高瀬駅から徒歩約15分(0.9km)

3. 対象生徒

- (1) 義務教育未修了者(外国籍の方を含む)
- (2) 不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかった方
- (3) 不登校の学齢期生徒

4. 生徒について（令和6年5月1日 時点）

【学齡経過者】

- (1) 在籍数 17名
- (2) 国 籍 日本国籍 15名、外国籍 2名
- (3) 年齢構成 10代～80代

【学齡期】

- (1) 在籍数 2名
- (2) 学 年 第3学年

【在籍数】	第1学年	4名
	第2学年	5名
	第3学年	10名

5. 教職員等の配置

(1) 教職員数 16名

(2) 内 訳

- 校長 1名 (高瀬中学校)
- 教頭 1名
- 常勤 5名
- 非常勤 7名
- 半日勤務 2名 (養護教諭、学校事務)

(3) その他の体制

スクールソーシャルワーカー、夜間学級サポーター
スクールカウンセラー

6. 日課表

◆ 学齡経過者

始めの会	17:25～17:30
1校時	17:30～18:10
2校時	18:15～18:55
休憩(補食)	18:55～19:15
3校時	19:15～19:55
4校時	20:00～20:40
帰りの会	20:40～20:50
下校	20:50

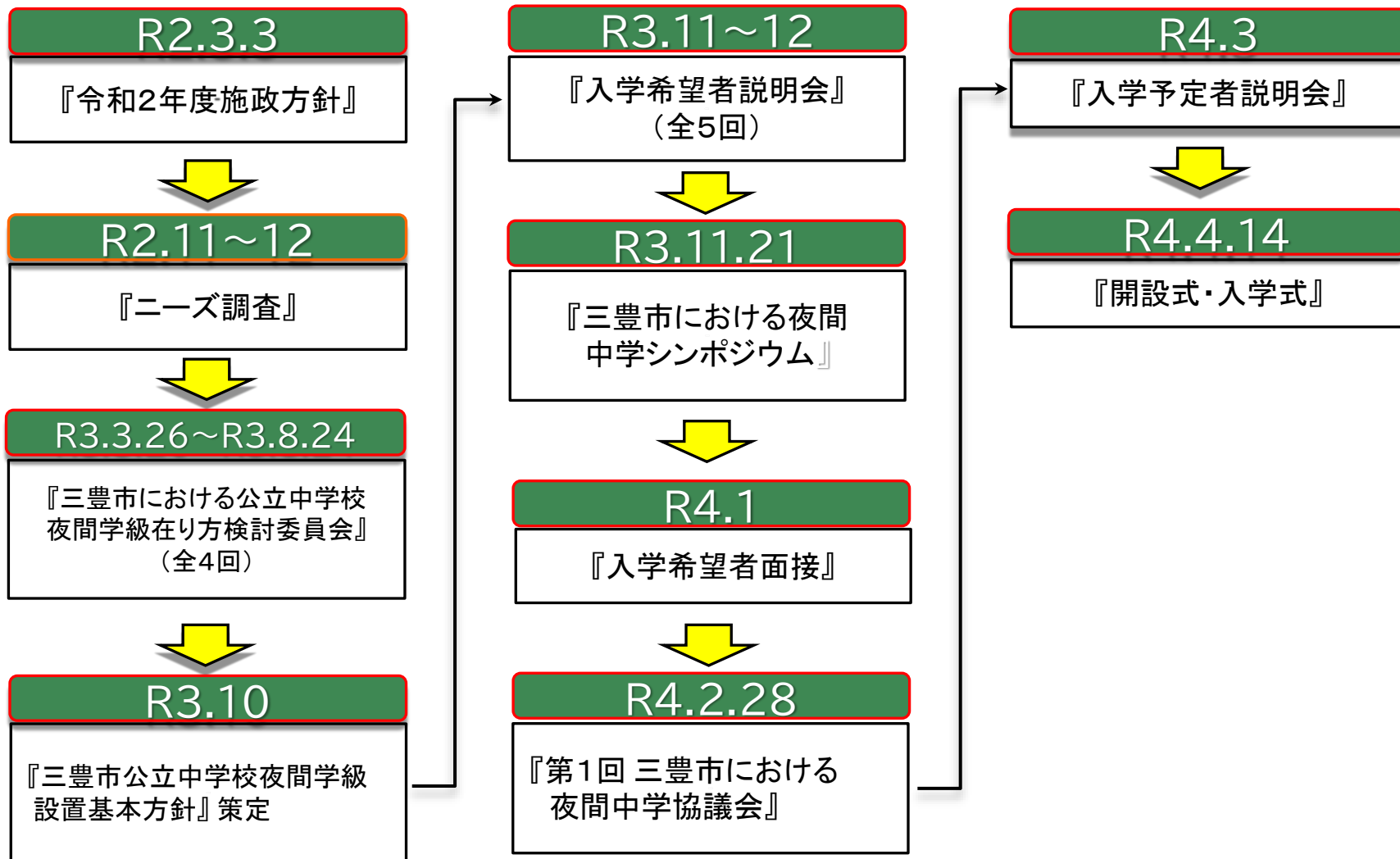
◆ 学齡期

始めの会	16:40～16:45
0校時	16:45～17:25
1校時	17:30～18:10
2校時	18:15～18:55
休憩(補食)	18:55～19:15
3校時	19:15～19:55
4校時	20:00～20:40
帰りの会	20:40～20:50
下校	20:50

◆ 1単位時間……………40分

◆ 年間授業時数……………学齡経過者:700時間
学 齡 期:805時間

7. 夜間学級設置までの流れ



8. 学びの多様化学校について

- (1) 指定日 令和4年3月28日(不登校特例校)
- (2) 本市の学びの多様化学校の特色

- ・ 夜間の学齢経過者と、多くの授業を一緒に受ける
 - ➡ 相互の違いを知り、差異を受け止め、自分自身を変容させる
 - ➡ 同世代の生徒と一緒に学習する以上の生活の知恵を身につける

- ・ 同世代の同調圧力、学力優先・進路決定優先の雰囲気、必要以上の学則の強制が無い
 - ➡ のびのびと学習できる

9. 学齡期生徒の受け入れの流れ

【学齡期生徒】

①事前相談（保護者→住所地の教育委員会（在籍校））



②面談1（生徒・保護者⇔三豊市教育委員会）

※ 特例校を希望する理由、生徒本人の学習意欲、保護者による送迎が出来るか等を確認



③体験入級申請書の提出
（保護者→住所地の教育委員会）



④面談2（生徒⇔三豊市教育委員会）

※ 体験入級の受入可否を決定

体験入級（1箇月以上）

⑤随時面談（生徒・保護者⇔夜間学級）

※ 夜間学級教諭と随時面談し、学習意欲等を確認



⑥面談3（生徒・保護者→三豊市教育委員会）

※ 体験入級中の通学・学習の様子を踏まえ、転入の可否を決定



⑦校区外（区域外）就学許可申請書の提出
（保護者→三豊市教育委員会）

転入

【ポイント】

・体験入級（1箇月以上）が必須

➔ 生徒が通学し、学習できるか保護者が送迎出来るか

・転入までに3回の面談を行う

➔ 生徒にとって夜間学級が最良の選択か

10. 学齡経過者の受け入れの流れ

【学齡経過者】

①事前相談（住所地の教育委員会へ）



②面談

※ 夜間中学を希望する理由、
学習意欲等を確認



体験入学

※ 体験入学は本人の希望があった場合に
学校と調整のうえ、実施

③随時面談

※ 夜間学級教諭と随時面談し、
学習意欲等を確認



④入学願書の提出

※ 住所地の教育委員会へ



⑤面接

※ 本人の入学意思等を確認し、
入学の可否を決定

入 学

【ポイント】

・体験入学は希望により実施
➔ 希望者の意思を尊重